

武道（相撲）					
時間	1	2・3・4	5・6	7・8	9・10
単元過程	相撲の礼儀作法や相撲の技を覚え、技能を高めながら試合を楽しんで行う				
めあて	単元の確認と礼儀作法	相撲の基本の技を覚えながら技能を高め、試合を行う			
学習内容	オリエンテーション・四股名・所属部屋 決め・礼儀作法（蹲踞・塵浄水）	中腰の構え・四股・運び足・相撲遊び	仕切り・立ち合い・押し・寄り・試合	練習試合（出稽古）	相撲大会 出南二月場所

図1 単元計画

四股名	
所属部屋	

- 【相撲遊び】
手押し
蹲踞
びよんびよん
中腰から
- 【練習】
・柔軟
・運び足
・押しながら
・むかで
- 【番付】
・横綱（よこづな）
・大関（おおぜき）
・関脇（せきわけ）
・小結（こむすび）
・前頭（まえがしら）
・十両（じゅうりょう）
・幕下（まくした）
・三段目（さんだんめ）
・序二段（じよにだん）
・序ノ口（じよのくち）

シリーズ 中学校武道

授業の充実に向けて

131

つまずきをどう克服したか②4 （生徒が夢中になる楽しい相撲授業への挑戦）

熊本市立出水南中学校教諭 長浦 卓也

本校は熊本市民の憩いの場として有名な江津湖の西に昭和58年に開校し、全校生徒は588人で、学習や部活動などに日頃から熱心に励んでいる。

体育科教職員たちが今後の武道の授業をどうしていくかを話し合っている際、「そうだ、相撲をしよう！」と意気投合。3年前の平成29年度から、指導書等を参考にしながら実践を始めた。県内でも相撲の実践校がほとんどない中で、手探りではあったが、初心者の中学生をいかにして相撲に親しませるか、様々な工夫を取り入れ実践を行ってきた。

今回は、今年で3年目となる出水南流の「生徒が夢中になり、楽しくなるための工夫」を皆さんにご紹介していきたい。

1 相撲の授業の導入に当たって

■出水南中学の相撲授業の構想
「イズナン・オリジナル」
相撲をするとなれば、生徒たちの反応として、相手とぶつかることや転倒など、「痛い」「危ない」「きつい」というイメージがあるのではないか。そのイメージを大きく変えていく必要があると考えた。そこで、生徒たちに相撲の授業を通して、「相撲」という教材の

持つ楽しさや喜びを味わってもらい、形式にとらわれず、夢中になつて相撲に取り組み、繰り返し動作をしていくことで筋力のアップなど体力の面でも効果を上げていきたいと考えた。

これらを達成していく上で、10時間の単元計画を立て、工夫点としては主に次の2点を意識した。

①相撲の楽しさや喜びを味わうための設定
②いろいろな仲間と安全に授業が出来るための場づくり。

■単元計画

2月場所）を、予選リーグと決勝リーグ各1時間という形で開催し、今までの成果を生かしながら部屋ごとの団体戦を行う。最後に相撲学習の感想を記入する。

2 もっと楽しく夢中になる授業につながるための工夫点

■礼節の意識づけ

まず、相撲授業を通して、礼儀を学ぶという点はとても大切である。1時間目で話し、毎時間タイムングをとらえ声かけを重ねた。礼法の指導や実践はもちろんであるが、「仲間や相手がいるから稽古や試合ができる」という、大切に思う気持ち（リスベクト）を大事にした。その気持ちがあれば、試合でも投げ飛ばすことなく、転倒しそうな時は、最後に相手を支える等といった動きが出てくる。

これらが、安全面での配慮のベースにもなった。

- 平成29年度は1、2年生の男女全員に相撲授業を行った。
- 単元の計画の詳細は、次の通りである（図1）。
- ▽1時間目——オリエンテーション（様々な決めごと、礼法、基本動作）で見通しを示し、意欲や関心を高める。
- ▽2・3・4時間目——中腰の構え、四股、運び足、相撲遊びで基本の動きを教える。相撲遊びでは徐々に対人の動きを入れていく。
- ▽5・6時間目——仕切り、立ち合い、押し、寄り（段階的に）、試合（押し合い相撲）などを、徐々に本格的な試合の流れと進め方を教えながら、自分たちで運営していけるよう経験させていく。
- ▽7・8時間目——練習試合（出稽古）という設定で、いろいろな場でいろいろな相手と試合（稽古）をしていく。その際は番付を用いて意欲を持たせて行わせる。
- ▽9・10時間目——まとめ。相撲大会（例・秋の出南場所、出南



部屋ごとの団体戦を行った



出稽古でたくさんの試合経験を積む



みんなでムカデ歩き



みんなで四股踏み

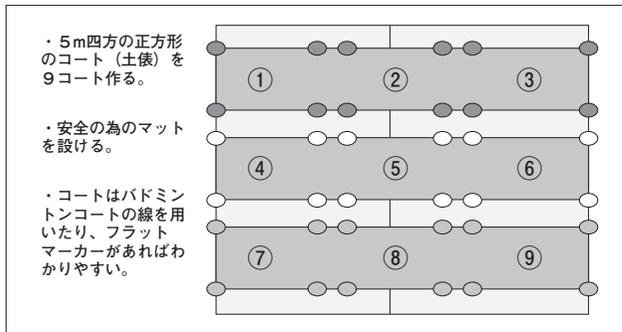


図2 9コート(土俵)の作成図

この点の工夫を取り入れ、図2のように場を作った。土俵は5m×5mの正方形で、四方にフラットマーカーを置く。転倒した場合に備え、マットを両端に置いた。安全面に関しては、前述のように、仲間を大切に思う気持ち(リスクペクト)を念頭に、相手が倒れたときには支えること、受け身は頭部を守るために、倒れる際におへそを見ることがもいとも意識させて行った。

■所属部屋を決める
 体育の授業では主に球技など、グループや班といった呼び方で、まとまって練習や試合をすることが多い。それをヒントにグループや班のことを「部屋」と呼んだ。決め方は、各クラス約15名なので身長順で3グループに分け、約5名の力士で構成される部屋を作り、名前を考えさせた。そして、

■四股名を決める
 相撲といったら何を思い浮かべるか、と質問すると……。生徒たちは、有名で強い力士などをよく口にする。そんなアイデアから取り入れたのが、授業でも自身が一人の力士となって四股名をもった上で稽古に励むという工夫である。生徒は自分で好きな四股名を考える。自分の名字や名前から考えていく。例えば、中村君は中ノ里で、大山くんは大山(だいざん)などと、力士としての自覚や愛着も出てきていた。教室での休み時間等でもよく話題になっていたという。

■どんな成果が得られたか
 これまで2年間の実践で得られた成果は、まず、相撲授業は「楽しい」「十分な運動量がある」ということを指導者も生徒も実感できたことである。そして、現代の子供たちにとって経験が少ないであろう「身体接触の取っ組み合い」の点からみれば、仲間と身体接触をしながら攻防を楽しむ相撲の特性を経験できたことが大きい。生徒たちの興味関心を引き出し、意欲の向上にも繋がっていったのではないかと思う。平成29年度の2年生男子85名にアンケートを取った結果、肯定的回答が事前では32%なのに対し、事後では87%に増加した(図3)。指導者のねらいとして「相撲の楽しさ」を伝えることが達成できたと思う。生徒の記述による感想からは、

3

まとめ

■これからの課題
 熊本市では毎年夏休みの8月に、様々な種目を専門で学んでいる体育教員が講師となり「熊本市実技指導講習会」を行っている。いろいろな友達と対戦できて楽しかった
 ・勝ったときの喜び、大きい相手に勝ったときはうれしかった
 ・部屋ごとの練習や出稽古が楽しかった
 ・秋の出場所が楽しかった
 ・番付が上がっていったときがうれしかった
 ・腕や下半身の筋力が上がったように感じる
 ・相撲の歴史・ルール・礼法などを知ることができた
 ・興味を持ってテレビ中継を見ることができた
 また、課題点としては、
 ・足の裏が痛かった
 ・もつと投げ技をしたかった
 などがあり、今後につながるヒントを得ることができた。

■番付や試合(出稽古・場所)を取り入れる
 授業の後半の5時間は主に試合が中心となる。特に、5・6時間目の授業で試合の進め方を覚えた後、7・8時間目の「出稽古」では大相撲の序ノ口から横綱までの10段階の番付制を導入した。出稽古では9コートでいろいろな相手と試合をしていく。その際審判も生徒が行事板(軍配)をもつてジャッジする。1回勝ったら1つ番付上がり、負けたら1つ下がる。まずは、4回負けずに勝利「十両」になろう、十両になったら報告しよう、と意欲を持たせながら試合をさせる。十両以

上になったらそれ以下には下がらないという設定で、十両以上の力士同士で試合をさせ、横綱を目指すよう促した。また、十両以上の力士が横綱に勝ったら、いきなり横綱に昇進できるルールを導入するなど、工夫するととても盛り上がった。9・10時間目には部屋ごとの団体戦である「場所」を行った。

■いろんな仲間と安全に授業が出来るための場づくり
 授業の後半では、試合の時間が多くなる。試合をするに当たっては、安全な場で活動できるように環境を作ること、より多くの試合ができるよう工夫することを心がけた。本校には、武道場がないため、授業を体育館のフロアで行った。平成29年度は、体育館のバドミントンコートの枠の緑の線を使って、9つのコートを作り、授業を行った。平成30年度は、第5回全国相撲指導者研修会に参加し、学ばせていただいたことを生かし、安全面や土俵を明確に示すと

上になったらそれ以下には下がらないという設定で、十両以上の力士同士で試合をさせ、横綱を目指すよう促した。また、十両以上の力士が横綱に勝ったら、いきなり横綱に昇進できるルールを導入するなど、工夫するととても盛り上がった。9・10時間目には部屋ごとの団体戦である「場所」を行った。

本年度は柔道・相撲・剣道が開講され、本校の実践の取り組みを市内の体育教員に周知する機会をいただいた。プレゼンテーションでの説明と実技を行い、相撲の魅力を伝えることができた。講習ではみなさんの反応も良く、さっそく2校から2学期で行いたいのので資料等をほしいという連絡をいただいた。

また、来年度の熊本市わくわく

授業研究会で授業発表の機会がある。相撲の授業が出来るならば多くの教員や学校に広まっていくのではないかと思う。

最後に、本校でも3年目の相撲授業の実践を今年12月に予定している。さらなる成果を得られるよう教材研究を深め、生徒と共に相撲授業を楽しみながら実践していきたい。

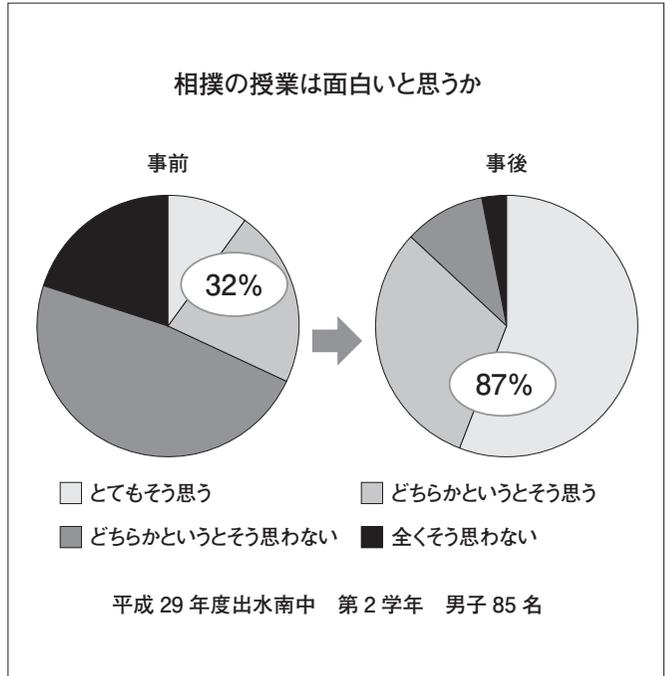


図3 アンケート結果 (相撲のイメージ)